

秋の法要ご案内



13時～

13時半～

当日のプログラム

日時 9月4日(日)

お勤め

福祉講座 海 法龍さん

「誰のために葬儀を勤めるのか」



講師紹介：海 法龍さん



1957年熊本県天草市生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業。大谷専修学院卒業。現在、神奈川県横須賀市の真宗大谷派・長願寺住職。真宗大谷派首都圏教化推進本部員。著書に「報恩の生活」（東本願寺出版）、「苦悩の海をゆく」（東京真宗同朋の会）など。

東京の真宗会館で、大谷派教師養成の教師検定取得コースの講師も務められている。当寺の副住職もかつて海先生の講義を受講して、晴れて大谷派教師となることができた。

海先生からのメッセージ

先日、ある新聞のオピニオンのコーナーで『死について』という特集がありました。その中で26歳の男性の方が、祖父の葬儀の時に感じたことが投稿してありました。祖父が亡くなり、生きるものはいつか死ぬとわかっているのに、どうしてもなく悲しくて、私を支えていた何かが抜け落ちたようでした。しかし葬儀の時、新しい気づきがありました。遺影を見て、その場に残された家族は祖父が残してくれた財産なのだと思います。命が確かに繋がっていることを強く感じたのです。死とは全てがなくなってしまうことのように感じますが、死んでも生きるものが確かにあるのです。読みながら「残された家族は祖父が残してくれた財産」という言葉にハッとさせられました。お金に換算できない財産があるとおっしゃいます。それは私の存在であり、隣のあなたの存在です。ウクライナの人でもロシアの人でも、亡くなっていった人たちも、私たち一人ひとりが人類の財産であり、宝なのでしょう。私たちは日ごろ、何を自分の宝としているのでしょうか。もしかすると、自分の価値観・考え方を最上のものとして、つまりそれを宝にして過ちを犯し続けているのかもしれない。今回の徳成寺様の福祉講座で、葬儀、死ということを通して、私たちの生まれ、生きていることの意味を、一緒に尋ねて参りたいと思っています。



この度の秋の法要は昨年来、皆様の年忌法要の際の法話で、一緒に拝読した左の小冊子『誰のために葬儀を勤めるのか』の著者・海法龍先生をお招きします。この冊子は、2019年に首都圏で開催された「第五回エンディング産業展」におけるブースセミナーで、海先生が講演された内容をまとめた講義録であります。

